

## 平成 27 年度第 1 回練馬区消防団運営委員会発言要旨

### 1 日時

平成 27 年 7 月 22 日 (水) 午後 3 時 00 分から午後 4 時 30 分まで

### 2 会場

練馬区役所本庁舎 5 階庁議室

### 3 委員長および委員の出欠状況

#### (1) 出席者

前川委員長、高橋委員、小林健二委員、むらまつ委員、内田委員、井上委員、山田委員、中村委員、鳥海委員、小林利生委員、原川委員、松野委員、石井委員、福島委員、吉田委員、尾崎委員

#### (2) 欠席者

なし

### 4 議事内容 (要旨)

#### (1) 開会

##### 【練馬区危機管理課長 (司会進行)】

本日は、ご多忙の中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、平成 27 年度第 1 回練馬区消防団運営委員会を開催します。

#### (2) 委員紹介

(委員・事務局の紹介)

#### (3) 委員長あいさつ

##### 【委員長】

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、感謝申し上げます。

昨年、東京都知事から練馬区長である私に対して、諮問があった。諮問の内容は、「特別区消防団を更に充実強化するための入団促進方策及び活動力強化方策」についてというものである。これを受け、昨年 11 月に第一回目の委員会を開催し、審議を始めた。その後、各消防団では、全消防団員を対象にアンケート調査を実施し、課題の分析に取り組んできた。特に、取りまとめの幹事である尾崎団長を中心として、区内 3 消防団の若手団員など 19 名が、アンケート結果を踏まえ、2 度にわたって意見交換会を行った。本日の審議のために配布されている資料は、こうした取り組みの成果を反映させたものと聞いている。次回の委員会で、答申をまとめる日程となっており、建設的なご意見をお願いします。

#### (4) 議事

##### 【事務局 (石神井消防署警防課長)】

(資料1について、説明を行う。)

**【委員長】**

以上の説明に対し、ご質問やご意見は。

**【山田委員】**

資料の4ページの下の方の表の在団年数の欄について、「16年から20年」の次が「25年から30年」になっており、「21年から25年」が抜けている。5ページの上の方の表も同様に「21年から25年」が抜けている。

**【事務局（石神井消防署警防課長）】**

資料をまとめる段階で、抜け落ちてしまった可能性がある。確認の上、修正する。

**【内田委員】**

それぞれの分団を見ていくと、分団本部が整備されていない団が、練馬区内にも数多く存在しており、本部を確保してほしい。

また、練馬区内は坂道が多く、手引き可搬ポンプを運ぶのに困難な場所も多いため、このような地域には優先的に可搬ポンプ積載車を配備してほしい。

**【事務局（練馬区危機管理課長）】**

東京消防庁の方で、分団本部の整備や装備品の充実につきましては、鋭意、事務を進めている。また、区としても、東京消防庁の計画の進捗を踏まえながら、区として協力できる点について十分に調整・協議したうえで、分団本部の整備についても積極的に協力している。具体的な部分については、東京消防庁とともに事務局の中で調整し、実現化を図っていく。

**【委員長】**

資料の中で、退団理由で定年や高齢による健康不安・体力低下などの割合はそれほど多くない。しかし、現在の構成員の年齢層をみると60代の割合も多く、今後、退団していく団員が増えてくるのではないかと。

**【事務局（石神井消防署警防課長）】**

現在団員を占めている年代が40代から50代が6割～7割となっており、今後、高齢な方が退団することが増えてくると思われる。また、退団理由については、家庭の諸事情という理由が半分近く占めている。その中には、出席がおろそかになり、団内での人間関係が難しくなったり、家族の介護などの理由もあり、年齢に限らず家庭の諸事情などのそれぞれの理由で退団されている。

**【むらまつ委員】**

私も消防団に入って4年になるが、若い団員が増えてもらいたいと思っている。若い世代の間で、消防団の認知度は低いと思える。新聞やマスコミを使った消防団のPRを全国的にやってほしい。

また、普段の活動については、操法大会中心の活動になっているという実感がある。大会に勝つことは意味があると思っているが、それに時間を割きすぎて、選手だけが技術が磨かれるのは本末転倒と思われる。分団によって考え方は違うが、あまり操法大会だけに特化しすぎると、操法大会のためだけのクラブになってしまう可能性がある。

**【委員長】**

消防団の皆さんがこんなに頑張っていることを、普通の区民は、なかなか知る機会が

ない。それは、われわれ行政の責任であり、これから PR をしっかりやっていく必要がある。

また、消防団になって具体的に何をやっていくのかということが、世間に伝わっていない気がする。消防署・行政が何を期待し、何か起きた時に具体的に何をしてもらうかなどが知られていない。答申案は大変良くできているが、具体化させるためにも、情報の伝達・通知の内容の充実が必要と考える。

**【石神井消防署長】**

ご意見いただきまして、全くその通りだと思う。我々、消防署として消防団に何を望んでいるのか、震災の時はこのような役割、平常時はこのような役割、警戒の時はこういう役割などをもっと明確に打ち出していくと同時に、具体的な活動をもっと PR していく必要があると考える。そのような内容を次回の運営協議会までにお示しできればと思う。

**【小林健二委員】**

私も光が丘消防団に入り、実際に行動をともにして初めてわかることが非常に多い。そういった現場でわかることをどれだけ区民の皆様理解していただけるような PR をしていくことが必要。その中で、東日本大震災のときに消防団の方々が命を懸けて人命救助を行っていたという事実を伝え、具体的な活動が区民の皆様にもイメージしてもらえるかということが大事と考える。単純に消防団がどういうものかという漠然としたイメージを植え付けるのではなく、具体的に消防団がどのような活動をしているのかということをお示しすることが重要。

**【高橋委員】**

答申書案にでていたアンケート内容については、都でも情報共有したいと思う。20代・30代・40代の方々に入団してもらうため、区報で消防団の具体的な活動を取り上げてほしい。

**【事務局（練馬区危機管理課長）】**

区報においても、毎年一回の防災特集号や区民に全戸配布している防災の手引きなどを活用しながら消防団の活動を周知・PRを行っている。しかし、まだまだ工夫の余地がある。この点については、今後も、さらなる充実に向けて区報等を活用していく。

**【高橋委員】**

区報にのせるときに、決まったマスにただ箇条書きにするのではなく、特別に特集を組んでほしい。

**【委員長】**

私としても各委員の意見はよく分かるので、特集として区報にのせることをお約束する。ただ、その時に、今議論があったように、消防団がちゃんと活発に活動しており、どのような役割を担っているのかについてと、首都直下地震を想定して、消防団には具体的にこういう役割を担ってもらうということを目に見える形で周知すべきだと思う。一般的な周知を繰り返しても今までと変わらない。次回までに、その辺を中心に、幹事が中心となってまとめていただき、なるほどと区民が思うような PR をさせていただきたい。

**【石神井消防署長】**

具体的内容については、次回、まとめてお示しする。

**【井上委員】**

私は、18歳の高校生から消防団に入っている。その前に小学校4年生から消防少年団に入っており、練馬消防署の方からすすめられ、そのまま消防団に入団した。消防少年団の指導者という形で高校生の方々が関わっている。高校生になった消防少年団の指導者に対して、消防団に入ってもらえるようなアプローチを大々的にやるべきではないか。

**【石神井消防署長】**

消防少年団から指導者となって消防団に入っていただくという流れが我々も理想と考える。高校生の方々に積極的にすすめていきたいと思う。

**【光が丘消防署長】**

高校から大学に移る大切な時期でもあり、消防少年団の活動も難しい中で、さらに消防団への加入をすすめるのは、かなり困難な現状がある。ただ、井上委員の意見もごもっともなので、そういう努力は行っていく。

**【委員長】**

これでだいたい意見が出尽くしたということで、よろしいでしょうか。それでは、いただいた答申案を行政としても検討させていただき、それに並行して、幹事を中心として、消防団のいざという時の具体的役割をまとめていただきたい。

(5) その他

**【高橋委員】**

恒例のポンプ操法大会について、大体同じ時期に各分団が練習を行っているが、分団によって、夜の練習場所の明るさに恵まれていない団がある。可搬ポンプ1台につき、投光器1個ついていると思うが、足りないと思う。明るさがたりない場所については、投光器を貸与してほしい。各消防署にないのであれば、本庁に対し、消防団運営委員会でそのような意見があった旨伝えてほしい。

**【石神井消防署長】**

操法大会の訓練場所については、各団が苦勞していることは把握している。管轄の分団に確認し、どのくらい足りないのかを把握し、必要があれば、本庁に要望を出していきたい。

(6) 代表消防団長あいさつ

**【尾崎委員】**

3消防団を代表しまして、一言ご挨拶申し上げる。

本日は、前川委員長をはじめ、各委員の皆様には、公私ともにご多忙のところ消防団運営委員会にご出席いただき、誠にありがとうございました。

今、消防団の70歳定年が定着し、団員の数が大分減っている。また、次の世代が入ってこない問題もある。私が分団長のときは町会のイベントなどに消防団の格好をして出席し、消防団をPRしていた。消防団のPRについては、答申を待たずして、町会と連携した入団促進など積極的に行っていきたい。

また、私個人としては、70歳定年がすこし早いかなと思う。70歳でも元気な人はいるのに、70歳が来たら定年というのはもったいない気がする。

本日は、いろいろとご議論いただきありがとうございました。また、様々なご指摘をいただき感謝している。本日は、誠にありがとうございました。

(7) 事務連絡

(事務連絡を行う。)

(8) 閉会

**【司会進行】**

以上で本日の消防団運営委員会を終了する。ありがとうございました。

**【終了】**